東洋大学
TOYO UNIVERSITY

未来のファン・サポーター育成プロジェクト

～誹謗中傷のないスポーツ環境を作り出すために～

東洋大学山下ゼミ チームB　中居 祐人、大本 空、高松 小雪

目次

1 はじめに

2 誹謗中傷の現状

3 調査・結果

4 提言

1 はじめに

◆東京オリンピック・パラリンピックにおける誹謗中傷◆

出典：NHK(2022)

◆東京オリンピック・パラリンピックにおける誹謗中傷◆

●スポーツ庁長官 室伏広治氏

「アスリートへのSNS等での誹謗中傷について」

SNS等により、アスリートに対して心ない言葉が浴びせられるといった事案が多く報道され、誹謗中傷の問題が浮き彫りになったことも事実です。

もとより、他人を誹謗中傷する行為は、いかなる理由があっても許されないことであり、真摯にプレーしているアスリートをおとしめる言動は、決して正当化される行為ではありません。

出典：スポーツ庁(2022)

◆パリオリンピックにおける誹謗中傷◆

・大会期間中の選手や関係者に対するSNS上での誹謗中傷
→8,500件超え

【事例1】

●陸上競歩　柳井 綾音選手

混合団体戦に集中するため個人戦を出場辞退したことで、中傷された。

「(SNSで来る)たくさんの方からの厳しい言葉に傷つきました。」
(柳井選手のX(ツイッター)より抜粋)

【事例2】

●柔道　フランシスコ・ガルリゴス選手

永山竜樹選手との試合で不明瞭な判定により、中傷された。

「対戦相手を傷つけたいと思ったことなど一度もないし、柔道の価値に反したことなど一度もない。」
(ガリルゴス選手のインスタグラムより抜粋)

選手や関係者に対する誹謗中傷は世界規模で**増加傾向**

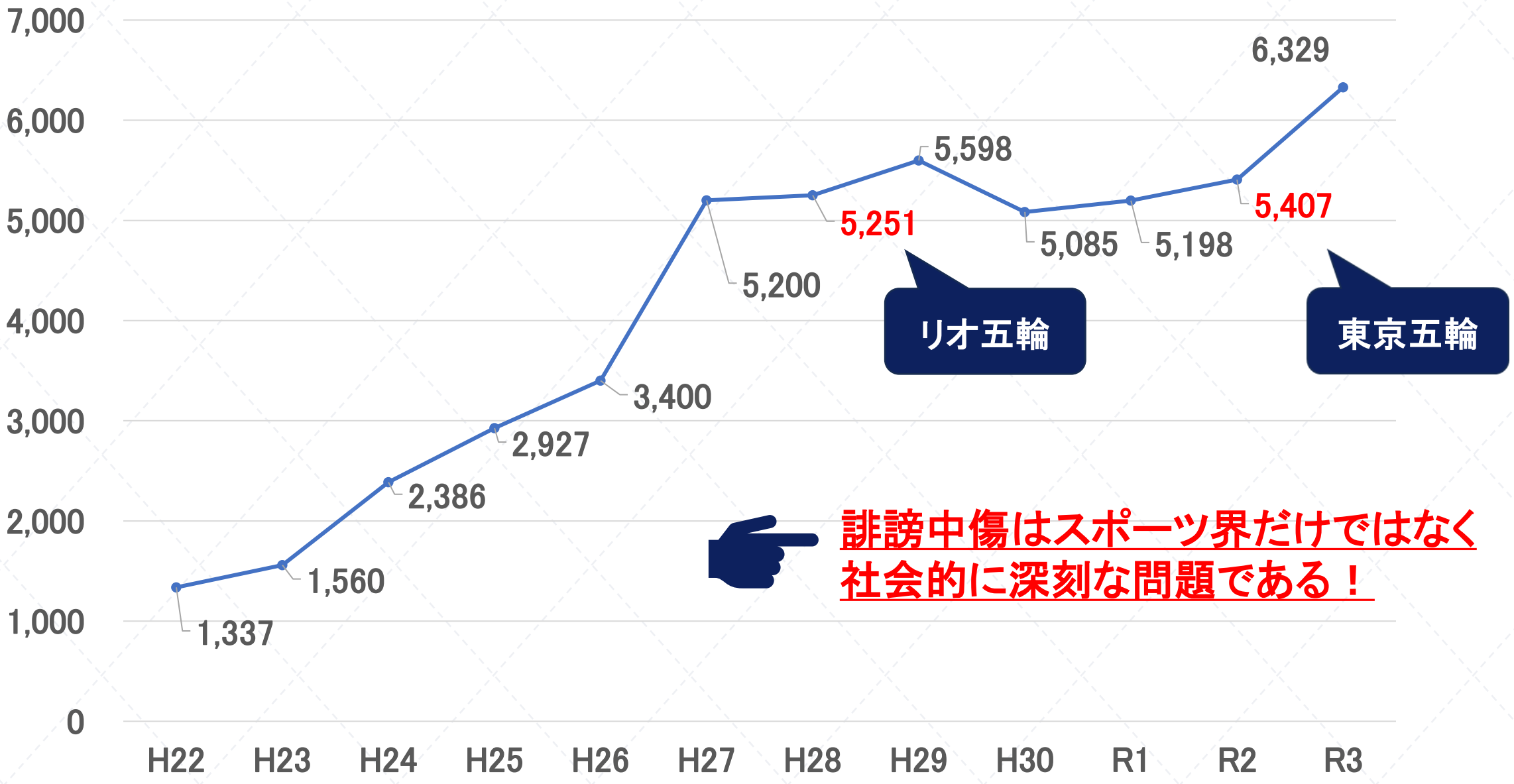
↓

スポーツ界における誹謗中傷は**深刻な社会問題**である。

↓

社会全体で解決していかなければならない！

2.誹謗中傷の現状



誹謗中傷はスポーツ界だけではなく社会的に深刻な問題である！

図1.違法・有害情報相談センターにおける相談件数の推移(令和3年実施)
出典：総務省(2023)

◆プロスポーツクラブが行っている誹謗中傷対策◆

SNS上での声明発表

実際に誹謗中傷が起こった際や、試合前の注意喚起として発表している。

AIによる技術的な対策

AIによって誹謗中傷に繋がる投稿を非表示にすることができる。
人工的に行うより早期に発見できる。

法的措置

悪質な場合や選手から依頼があった場合には法的措置を講じる。

◆法的措置　最近の事例◆

J1町田、SNS誹謗中傷へ刑事告訴を発表　藤田晋社長が訴え「もう限界。イジメと同じ」

10/15(火) 12:23 配信 251

FOOTBALL ZONE

公式リリース発表

FC町田ゼルビアは10月15日、クラブ及び所属選手・スタッフに対するSNSにおける誹謗中傷に対して、刑事告訴すると発表した。クラブの藤田晋代表取締役社長 兼 CEOは「もう限界。イジメの構図と同じ」と訴えている。

【写真】町田のベンチGKがタオルでボールを拭いて渡す決定的瞬間

誹謗中傷に関する内容の刑事告訴を発表した町田（写真はイメージです）【写真：徳原隆元】

町田は9月28日のサンフレッチェ広島戦において、黒田剛監督が相手にロングスロー用のタオルを濡らされたとして苦言を呈し、その後クラブ及び所属選手・スタッフに対して、SNSなどにて悪意ある誹謗中傷が多発していることが、クラブ側より発表されていた。

所属選手、スタッフに対するSNS上での誹謗中傷が発生

- ・顧問弁護士の就任
- ・情報提供窓口の設置

出典：YAHOO! JAPAN（2024）

◆プロ野球選手会担当弁護士が発足した団体◆

COASとは

COASは、インターネットやSNS上でのアスリートに対する誹謗中傷に対して警鐘をならし、その抑止を目指すスローガンです。

COAS

誹謗中傷は止めよう

COASの活動のご紹介

SNS等での誹謗中傷が社会問題となっています。悪質な誹謗中傷を受けて、多くのアスリートが心を痛め、プレーに集中できる環境も阻害されています。
我々は、このような現状を変えるため、スポーツ界における誹謗中傷を抑止するため活動します。

①COAS公式HPの運営
・同サイトでは、誹謗中傷に関するニュース記事等の紹介・各チームの取り組みやリリースの紹介、**アスリート向けの法律相談窓口の設置**、誹謗中傷を受けた場合の対策方法、証拠の取り方の解説等、各種コンテンツを掲載予定です。

②COAS公式Xアカウントによる情報発信

③COAS賛同パートナーとの誹謗中傷抑止に向けた各種活動

④COASメンバーによる取材対応やセミナーの実施、記事の執筆活動等

⑤誹謗中傷関係の法改正に向けたロビー活動

出典：Combatting Online Abuse in Sports(2024)

大学生の私たちが関われる対策

↓

「良質な観戦者の倫理観を醸成すること」

具体的には…
観戦者の倫理観を醸成することで、「なぜ誹謗中傷をしてはいけないのか」について考える力が身につく。また、観戦者同士の衝突や誹謗中傷も無くなる。

3　調査･結果

調査概要

目的：スポーツ組織は誹謗中傷に対してどのように対応しようとしているのか？

対象：Jリーグクラブ運営担当者

方法：対面形式のインタビュー調査

日時：2024年5月28日

対象：女子スポーツリーグ事務局長

方法：Zoomでのインタビュー調査

日時：2024年6月7日

対象：障がい者スポーツチーム運営担当者

方法：メールでの書面回答調査

日時：2024年6月25日

対象：プロ野球選手会担当弁護士

方法：Zoomでのインタビュー調査

日時：2024年7月23日

調査内容

Q1. 誹謗中傷について把握している現状

Q2. 現状行われている予防策、対応マニュアルの有無

Q3. 今後の被害件数減少のための対策、課題

調査結果

Q1. 誹謗中傷について把握している現状

Jリーグクラブ
運営担当者

スタジアムでの居残り行為が昨年5回あった。
試合後、関係者へ名指しでの暴言があった。

スタジアム以外は**SNS上での誹謗中傷がほとんどだった。**

女子スポーツリーグ事務局長

試合会場ではほとんど誹謗中傷は起こっていない。
外国とのハーフの選手に対する**SNS上の誹謗中傷**があった。
SNSで選手個人に対する被害件数は把握できていない。

調査結果

Q1. 誹謗中傷について把握している現状

障がい者スポーツ
チーム運営担当者

選手権大会の試合会場にて観客からチーム関係者に対して盗撮行為及び暴言を発する等の行為が確認された。

SNSにおける被害についての回答は無かった。

プロ野球選手会
担当弁護士

実際に法的な対応をした件数と実際に受けている被害件数には差がある。
SNS上の被害は件数が多すぎて把握しきれていない。
法的措置は選手等から相談を受けて一緒に行う。
法的な対応をした加害者の内訳は性別、年齢ともにバラバラだったがほとんどが野球ファンであった。

調査結果

Q2. 現状行われている予防策、対応マニュアルの有無

Jリーグクラブ
運営担当者

悪質な投稿に対してクラブ公式サイトを通じ、法的措置を視野に入れるという声明発表を予防策として行っている。
制裁などの加害者への対応はリーグの共通認識に沿って行なっている。

女子スポーツリーグ事務局長

プレー以外で激しくなりすぎない風土づくりを意識し、観客が選手などに対して誹謗中傷を浴びせにくい雰囲気をつくり、予防につなげようとしている。
確認できている被害が少ないためマニュアルは設定していない。

調査結果

Q2. 現状行われている予防策、対応マニュアルの有無

障がい者スポーツ
チーム運営担当者

選手権大会会場の被害を受けて、選手のベストパフォーマンス発揮に支障が出るとして**大会を辞退する決断をした。**
チームが主催する試合、イベントなどでは同様の被害が起こらないように**観戦約款を作成した。**

プロ野球選手会
担当弁護士

法的措置を取って対応した被害については、選手会として**声明を発表**している。
マニュアルといったものはないが、一件一件複数人の目で確認し対応している。

調査結果

Q3. 今後の被害件数減少のための対策、課題

Jリーグクラブ
運営担当者

SNSでの誹謗中傷は加害者に自覚がない場合もあるため、声明を出すなどして注意喚起を行う。
選手に誹謗中傷の声自体を届かせない工夫が必要。
加害者側にも、匿名でのSNSへの投稿、観戦するうえでのモラルやマナーに関する問題がある。

女子スポーツリーグ事務局長

リーグの中身を育てればファンも育つという考えを基に、試合後の両チームでの記念撮影等、選手間での良好な関係を見せることによる会場の清々しい雰囲気づくりを実施。
子ども達にも清々しい雰囲気を広めたい。
何が誹謗中傷にあたるかどうかの判断が難しい。

調査結果

Q3. 今後の被害件数減少のための対策、課題

障がい者スポーツ
チーム運営担当者

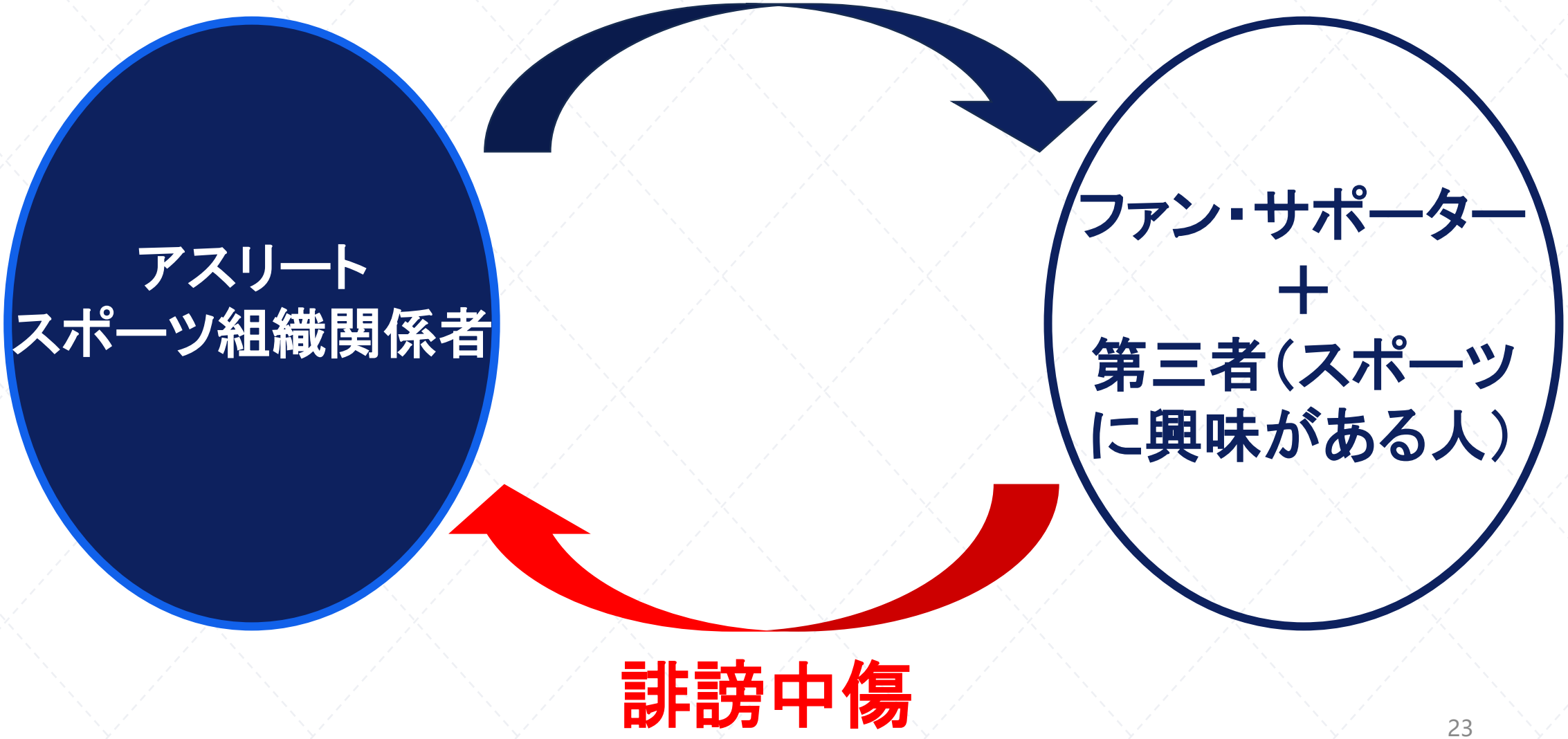
各チームでの対策に加えて連盟や大会との協力が必要。
何がきっかけで発生するのかわからないため事前の予防が大事だと考える。

プロ野球選手会
担当弁護士

誹謗中傷の悪質性を世間に認識させるための啓蒙活動。
AI等を活用し、選手への誹謗中傷を遮断するシステムは現状、資金が豊富な組織しか導入できていない。
法的措置は裁判の手続きを踏むため、対応に時間がかかるが、被害件数は膨大な数である。
誹謗中傷の定義づけが難解、また裁判官に委ねられるため、判断に差ができる。

結果のまとめ

法的措置、声明発表、制裁、風土づくり（FIFA、IOCはAIを活用した規制措置）



結果のまとめ

声明や法的措置の実施も被害件数の減少には至っていない

万人共通の誹謗中傷についての判断基準がない

法的措置、AIによる規制システムには時間と資金が必要

加害者に自分が誹謗中傷している自覚がない場合がある

被害件数はクラブ、リーグ単位では把握しきれない

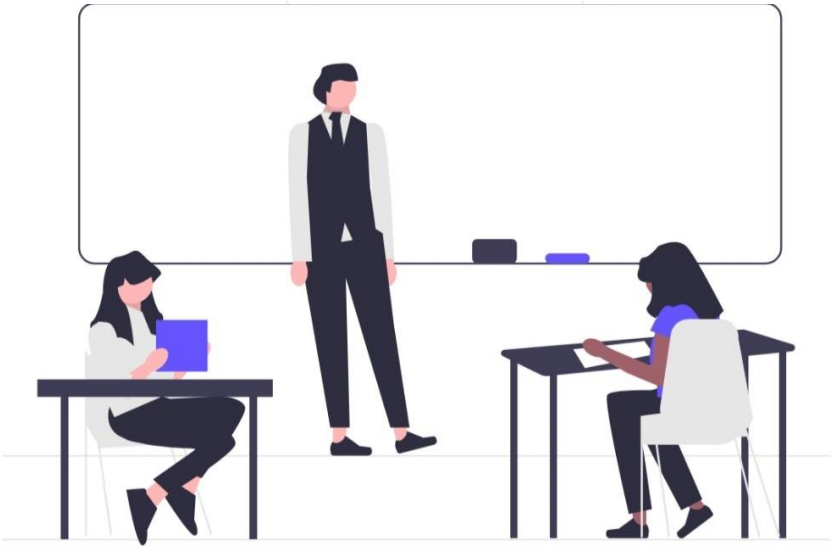
SNS利用者の投稿、観戦におけるモラル、マナーの欠如

誹謗中傷に対して真剣に考えることで、ファン・サポーターが問題性を理解し、当事者意識を持つような直接的なアプローチが必要なのではないか？

4 提言

◆仮提言◆

プロスポーツクラブにおいて子どもたちと一緒に誹謗中傷について考えるワークショップの実施



実現可能性

現場目線での効果・課題

追加調査の概要

調査対象　Jリーグクラブ 取締役副社長

調査方法　対面でのインタビュー

調査日時　2024年 9月20日

調査内容　仮提言の実現可能性の有無について
現場視点での仮提言の可能性・課題

Q1. 仮提言の実現可能性について

Jリーグクラブ
取締役副社長

実現は**十分に可能**。

クラブは試合を通して**「集客」と「プラットホームの提供」**が可能。

クラブやパートナー企業主催の試合前イベントに組み込んで行う形になる。

クラブは企業や大学、高校とも提携を行っているため、リソースの確保はできる。

Q2. 現場視点での仮提言の可能性

Jリーグクラブ
取締役副社長

「誹謗中傷問題」への対策を打ち出したいクラブは多く、**啓発活動にも繋がる**ため、ニーズは十分にある。

クラブが「誹謗中傷問題」という**社会課題に対して向き合っている姿勢**を見せることができる。

試合への招待やコラボ等を合わせて行うことで、**将来的なファンの拡大**にもつながる。

Q2. 現場視点での仮提言の課題

Jリーグクラブ
取締役副社長

パートナー企業や提携先とのイベントが優先的に行われるため、仮提言は現状のままだと優先度が低い。

クラブの規模によってはリソース（予算と人材）が足らず実施が難しいことも考えられる。

クラブ側で教材などの専門的コンテンツを準備することが難しいクラブもあると考えられる。

◆ 調査結果のまとめ ◆

Potential

- 社会課題への啓発活動
- 社会課題への取り組みの宣伝
- 新たなプロモーション企画の創出
- 将来的なファンの獲得・拡大

◆ 調査結果のまとめ ◆

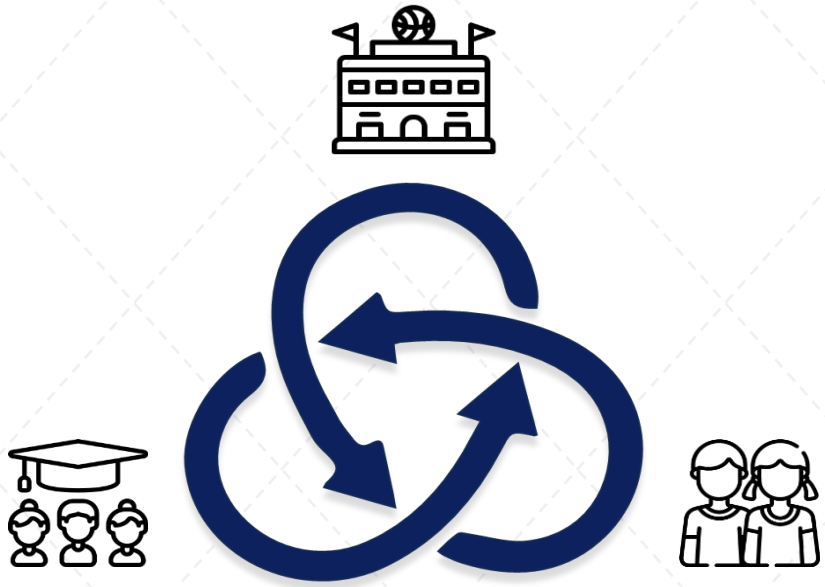
As-Is

- 提携先とのイベントが優先
- リソースがクラブ間で差がある
- 教材準備が難しいクラブもある

To-Be

- 提携を行う必要性
- 大学生との協力
- 専門性を有するスタッフの必要性

未来のファン・サポーター育成プロジェクト



「大学生」×「プロスポーツクラブ」

子どもたちと誹謗中傷について考えるワークショップの実施

◆ 提言概要 ◆

対象者

小学校 4 年生から中学校 3 年生までの子どもたち

ワークショップの内容

「誹謗中傷に対するルール作り」、「SNSの使い方講座」を実施。

主催

プロスポーツクラブ
×
「スポーツ倫理学」、「倫理学」を専攻している大学生・教授

実施会場

試合会場のスタジアム
イベントブース

file:///C:/Users/yunak/Downloads/dataA.pdf

◆　提言の流れ　◆

Step 01

クラブ・大学生間での提携・企画

Step 02

子どもたちの募集

Step 03

ワークショップ実施

Step 04

活動の拡散

Step
01 クラブ・大学生間での提携・企画

大学

・人材の提供
⇒学生（条件あり）、教授

・専門教材の選定・提供

・金銭面での援助
⇒研究費等

✖

クラブ

・集客の提供

・プラットフォームの提供

大学側・クラブ側がそれぞれ提供できるリソース

Step
01 クラブ・大学生間での提携・企画

クラブ・大学生間で提携をし、以下について決定を行う。

Ⅰ

教材・内容

講義内容、必要となる教材に関してクラブ側と共有を行う。

Ⅱ

人材

クラブ、大学側でそれぞれどの程度人員が必要になるのかを確認。

Ⅲ

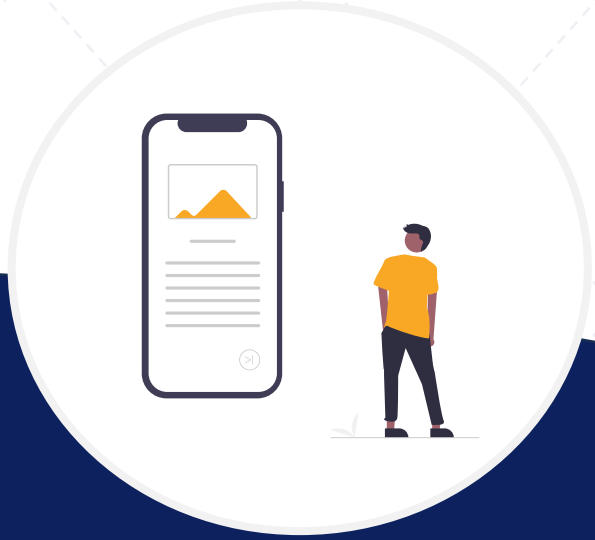
場所

ワークショップを行う会場やブースの選定を行う。

Step
02 子どもたちの募集

学校での募集

地域の学校を経由し、子どもたちに対して募集をかける。

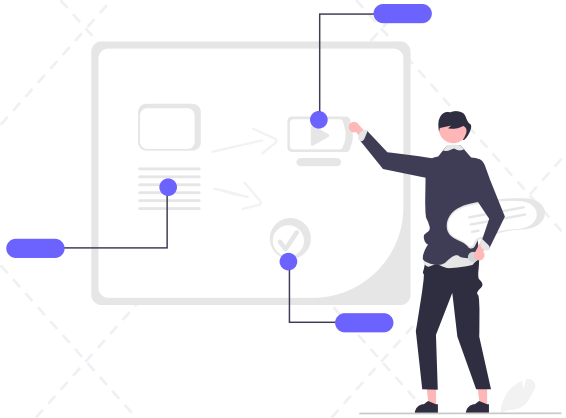


公式ホームページやSNSでの募集

各チームが運営する公式ホームページや各種SNSを通して宣伝をし、参加者を募集する。

Step
03 ワークショップの実施

教材を参考に「誹謗中傷」に関する講義を冒頭に行う。その後ワークショップに移る。

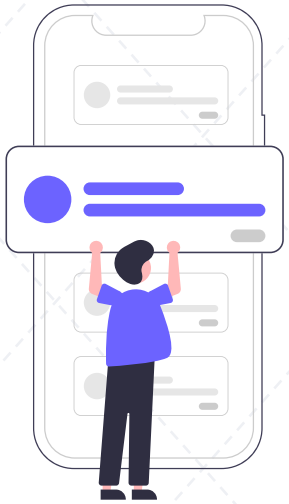


誹謗中傷に対するルール作り

講義で学んだ内容をもとに、子どもたち自身が自由に誹謗中傷に対するルールを作るカリキュラム。

SNSの使い方講座

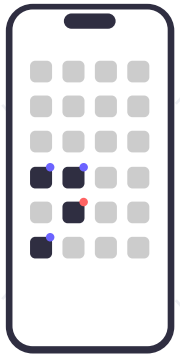
SNSの正しい使い方、発信する際に気をつけるべき点、
炎上した時の対処方法、開示請求の仕組み等を学習できる講座。



Step
04 活動の拡散

活動記録や子どもたちが実際に作成したルール等を様々な媒体を通して拡散する。

活動記録・作成されたルール



各種SNS

書籍

クラブ・大学ホームページ

◆ 期待される効果 ◆

期待できる効果 ①：教育的効果

ワークショップでの学習機会確保

↓

・学習効果
・問題性の把握
・当事者意識の芽生え

↓

誹謗中傷行為に関する理解、抑止

期待できる効果②：対策事例の増加

価値教育の実施においてクラブ側には課題あり（教材、人材、金銭）

↓

「大学との提携」
クラブ側の負担減＋プロモーション化

↓

リーグ・クラブにおける対策事例の増加

↓

良質な観戦者倫理の醸成＝（アスリートへの誹謗中傷が少ない世の中へ！）

期待できる効果 ①：教育的効果

●ワークショップでの学習機会確保

学習効果

・問題性の把握

・当事者意識の芽生え

誹謗中傷行為に関する理解、抑止

Point

・子どもたちに**直接的にアプローチ**できる

・誹謗中傷について考えること自体に意味があり重要

期待できる効果②：対策事例の増加

大学

授業等で学んだ知識・教養を実践する機会を得ることができる。

プロスポーツクラブにおいて就業体験ができる。

クラブ

リソース・教材面で、クラブ側の負担が減少する。

ワークショップをプロモーションとして活用できる。
Ex）無料チケット配布、著名人とのコラボ

ファンの獲得・拡大に期待

「大学×クラブ」のモデルの普及 ⇒対策事例の増加
⇒子どもたちを取り巻く環境へのアプローチ

期待できる効果 ①：教育的効果

子どもたちに直接的にアプローチできる

期待できる効果②：対策事例の増加

子どもたちを取り巻く環境へのアプローチ

良質な観戦者倫理の醸成
アスリートへの誹謗中傷が少ない世の中へ

・参考文献

1)NHK、『俺理論』『価値観の押し付け』選手へのひぼう中傷はなぜ起きる？＃アスリートのSOS https://www.nhk.or.jp/minplus/0016/topic040.html(2024年7月28日閲覧).

2)スポーツ庁、アスリートへのSNS等での誹謗中傷について（長官メッセージ）、 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00096.html(2024年7月30日閲覧).

3)IT media NEWS、止まらない「誹謗中傷」にどう対応する？　総務省の資料から見た現状と、サービス側の“限界”、 https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2303/01/news166.html(2024年9月3日閲覧).

4)Combatting Online Abuse in Sports、スポーツ界における誹謗中傷対策ポータルサイト、 https://www.coas-lawyers.com/(2024年9月29日閲覧).

5)YAHOO! JAPAN、『J1町田、SNS誹謗中傷へ刑事告訴を発表　藤田晋社長が訴え「もう限界。イジメと同じ」』、 https://news.yahoo.co.jp/articles/03c396a0cc134b0c169ad0b94fe15770c4a33fa3 (2024年10月17日閲覧).

ご清聴ありがとうございました。